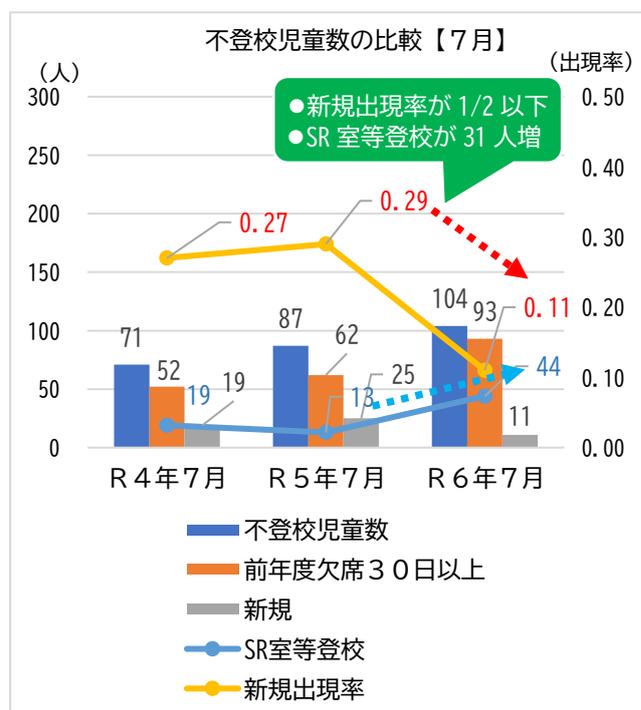
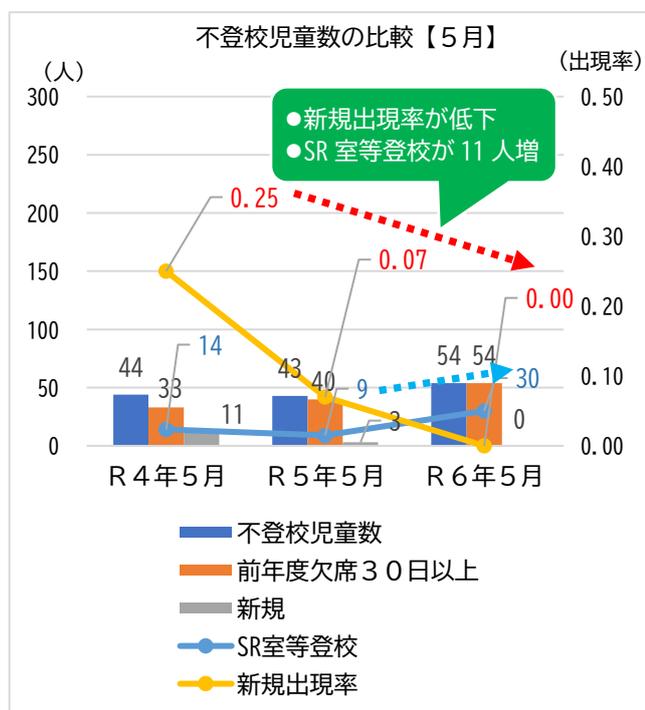


市立小・中学校の不登校の現状

1. 福島市立小・中学校における同時期の不登校児童生徒数の比較

【小学校】

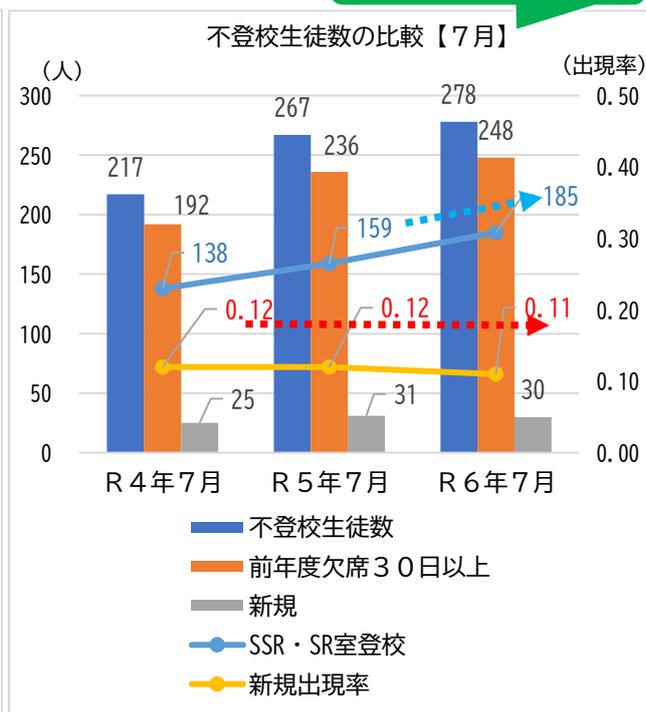
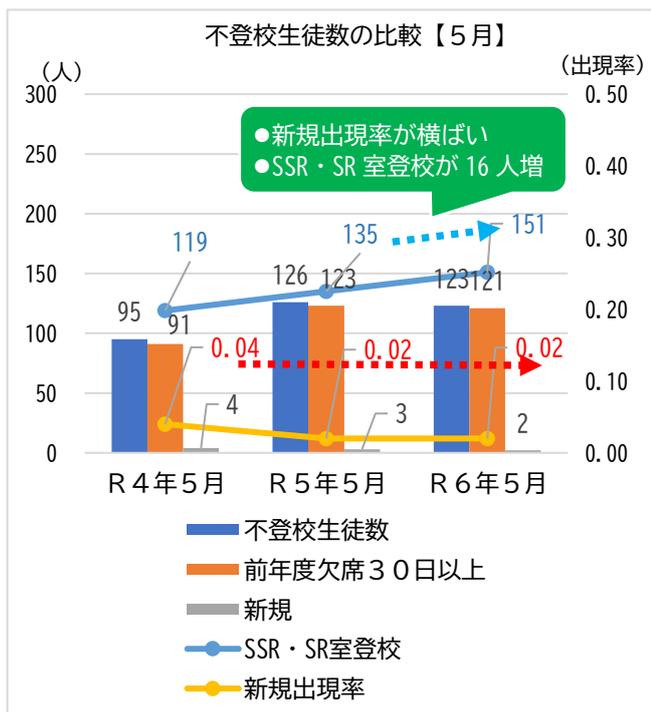


小学校	5月			7月		
	R 4	R 5	R 6	R 4	R 5	R 6
不登校児童数	44	43	54	71	87	104
前年度欠席30日以上	33	40	54	52	62	93
新規	11	3	0	19	25	11
新規出現率	0.25	0.07	0.00	0.27	0.29	0.11
SR室等登校	14	9	30	19	13	44

- 過去3年間の同月の不登校児童数の比較から、不登校児童数は年々増加している。ただし、新規の不登校児童数（前年度も30日以上欠席していた児童、つまり前年度も不登校にカウントされていた児童を除いた数）については減少傾向にある。このことから、各校での電話連絡や家庭訪問を通じた家庭との連携など、早期の対応をていねいに行い、新規不登校者を出さない取組が功を奏している。また、各校のサポートルーム（保健室等）への登校者数が、令和5年7月の13人から今年7月は44人と、31人増加していることから、サポートルームでの支援が大変有効に機能していると考えられる。

【中学校】

●新規出現率が横ばい
●SSR・SR室登校が26人増



中学校	5月			7月		
	R4	R5	R6	R4	R5	R6
不登校生徒数	95	126	123	217	267	278
前年度欠席30日以上	91	123	121	192	236	248
新規	4	3	2	25	31	30
新規出現率	0.04	0.02	0.02	0.12	0.12	0.11
SSR・SR室登校	119	135	151	138	159	185

○ 中学校でも同様に比較した結果、不登校生徒数については年を追うごとに増加しているが、新規の不登校生徒数は横ばい状態にある。これは、各校に設置しているサポートルーム（SR）及びスペシャルサポートルームにおける一人一人の状況に応じた相談・指導により、結果的に増加の抑制が効いているものと考えられる。また、各校のスペシャルサポートルーム（SSR）及びサポートルーム（SR）の利用者数が、令和5年7月の159人から今年7月は185人と、26人増加していることから、不登校及び不登校傾向にある生徒にとってのバッファ的な役割を果たしていると言える。

2. 不登校改善等に向けて強化している取組について

(1) 不登校対策支援パッケージ2024【家庭用】リーフレット配布

不登校及び不登校傾向にある児童生徒を持つ家庭に対して、教育委員会及び学校における不登校の改善に向けた取組について広く分かりやすく伝えるために、今年度新たにリーフレットを作成し配布する。

(2) 不登校予防のための早期対応システム

今年度から、一人一台端末を使用して、毎日登校した段階で心の健康状態を児童自身が入力して教師に伝えることができるコンテンツを導入し、的確な状況把握や早期対応に努めている。

(3) 生徒支援教員配置校訪問

不登校が課題の中学校8校に配置している生徒支援教員の活用状況と不登校児童生徒への対策等について、学校訪問を通して把握するとともに指導・助言を行う。スペシャルサポートルーム設置校については、県教委及び県北教育事務所の実践校訪問と合わせて実施する。

(4) 不登校生徒地区支援校の設置

不登校生徒の学習機会の確保と居場所づくりのために、今年度第2学期から、県から専任の担当を配置しているスペシャルサポートルームを設置している学校を「不登校生徒地区支援校」として指定し、近隣の中学校の生徒も通学できる制度を策定した。10月1日までに地区支援校5校のうち4校がスタートしている。

(5) オンライン学習教材「デキタス」の活用

スペシャルサポートルーム設置校及び生徒支援教員配置校となる中学校9校と、まなびの支援連携室「ふれあい教室」に通う不登校及び不登校傾向にある児童生徒（不登校生徒地区支援校を利用する生徒も含む）の学習保障を目的として、一人一台端末を使ったオンライン学習教材を導入する。本教材を通して、各教科の解説動画を視聴したり、テスト、ドリル等を活用したりすることで自学自習することが可能で、学校及び自宅等、インターネット環境があれば利用できる。活用期間は、10月15日から年度末を予定している。

不登校対策 支援パッケージ 2024

福島市教育委員会では、不登校を出さない魅力的な学校づくりと、不登校児童生徒が安心して過ごせる居場所づくり及び学びの場の確保のために、「不登校対策支援パッケージ2024」を作成しました。

左側のお子さんの状況に応じた支援を、「学校」「教育委員会」「その他の機関」に分け、わかりやすくまとめました。

不登校児童生徒を抱え、悩みを抱えている保護者の皆様に活用いただければと思います。ぜひ、積極的な活用をお願いいたします。詳しくは、お子さんが在籍する学校または、福島市教育委員会学校教育課、教育研修課にお問い合わせください。

福島市教育委員会

学校教育課

福島市五老内町3番1号（市役所8階）
電話：525-3782

教育研修課

福島市天神町11-31（市総合教育センター内）
電話：529-7735（代表）・536-7700（相談専用）

お子さんの状況	各学校 	教育委員会 	その他の機関
学校への登校を渋ることが多い	<p>SOSを見逃さない、児童生徒を支援するための教育相談体制を整備【小・中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タブレットによる「毎日の記録」を活用し、児童生徒の困り感やSOSを組織的に把握できるようにしています。 ○スクールカウンセラーやハートサポート相談員を各学校に配置し、児童生徒及び保護者の心のケアをしています。 	<p>児童生徒支援のための教育相談の実施【小・中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市総合教育センターに、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを各3名配置しており、児童生徒・保護者の心のケアや福祉関係機関との連携など、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう専門的な立場からバックアップしています。 ※詳しくは、市総合教育センター（536-7700）まで 	
学校に登校することはできるが、自分の教室に入ることができない	<p>生徒支援教員の配置及びサポート・ルームの設置【中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不登校生徒が多い中学校8校に生徒支援教員を配置し、教室復帰も視野に入れオンライン学習教材（「デキタス」）等を活用して支援を行っています。 ○その他の学校でも、教室に入れない児童生徒のために、サポート・ルームを準備し支援を行っています。 ※詳しくは、在籍している学校まで 		
学校のサポート・ルームに通っていたが同じ学校の友達や教師の目が気になり、登校することができない	<p>オンライン授業等の配信【小・中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業を家庭で受けられるよう各学校ではオンライン授業を配信します。 ○タブレットを活用した学習課題を提供します。 ※詳しくは、在籍している学校まで 	<p>不登校生徒地区支援中学校の開設【中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スペシャル・サポート・ルーム専任教諭（県教委）が配置されている下記中学校のサポート・ルームに、他校生徒が登校し、個別学習や相談等を受けることができます。（福島四中・信陵中・北信中・松陵中・信夫中） ※詳しくは、市教委学校教育課（525-3782）まで 	<p>不登校児童生徒支援センター「room F」（福島県教育委員会）【小・中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インターネット上の仮想教室にオンラインで参加し、学習はもとより児童生徒同士の交流を行い、学校や社会とつながるための支援を行っています。 ※詳しくは、福島県不登校児童生徒支援センター（554-1830）まで 
学校へ登校することができない		<p>まなびの支援連携室「ふれあい教室」【小・中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市総合教育センターに、学校に登校できない児童生徒の学びの場を確保しています。（オンライン学習教材「デキタス」等を活用） ・ふれあい1組（学習及び体験活動等を行います） ・ふれあい2組（自主学習を主として活動します） ※ふれあい教室に出席すると、在籍校での出席扱いとなります。 ※詳しくは、市総合教育センター（536-7700）まで 	
中学校を卒業しても進学先の学校に登校することができない	<p>公立夜間中学「天神スクール」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病気や不登校により十分に中学校で学ぶことができなかった生徒が夜間に学ぶことができる学校です。 ※詳しくは、福島第四中学校天神スクール（535-6601）まで 	<p>フリースクールとの情報交換【小・中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○フリースクールと情報共有等を行い、子ども支援の連携体制づくりに努めます。 	